



虹のかけ橋

第28号 / 平成21年7月



兵庫県立但馬やまびこの郷 <http://www.hyogo-c.ed.jp/~yamabiko-bo/>

活動プログラム

『ミニ・トライやる』 展開中！

「地域と交流しよう」
において



「おーい、起きてよ〜」
(お昼寝起きのお手伝い): 保育園にて



「さあ、並んで、並んで」
(田植え実習): 有機農法田にて



「カブトムシの幼虫は、でっかいな〜」
(幼虫をケースへ): リサイクル工場にて

但馬やまびこの郷での4泊5日の基本活動プログラムのうち、第2日目の午後に「地域と交流しよう」という活動があります。

この活動は、サイクリングやウォークラリーといった地域を巡る活動や^{こんにやく}蒟蒻づくり、しめ縄づくりといった地域の方との活動を通じて、地域とふれ合うことをねらいとしています。

本年度は、こうしたこれまでの活動に加えて、近隣にある事業所や地区の方々のご協力をいただきながらの社会体験活動（通称「ミニ・トライやる」）も展開しています。

参加した児童生徒からは、「おがくずのリサイクルなんて、知らなかった。会長の考えはすごい」「保育士になりたいと思った」「やっぱり情熱。米作りに一生懸命なことがわかった」など、視野の広がりを感じさせる感想をたくさん聞くことができました。「やまびこの郷のスタッフとはちがう言葉があり、やはり緊張した」といった感想も…。

但馬やまびこの郷は、子どもたちが自分自身を見つめることのできる活動をこれからも充実させていこうと考えています。

スクールカウンセラーとの 効果的な連携について（その1）



兵庫県スクールカウンセラー・スーパーバイザー 今塩屋 登喜子

スクールカウンセラーは、不登校、いじめの課題が顕在化し、社会問題化するという状況の中で、平成7年に、旧文部省の「スクールカウンセラー活用調査委託研究事業」として、学校に配置されました。

今年度で14年目を迎えますが、それらの課題は、一時減少傾向を示したものの、再度、増加傾向を呈し、高止まりのままです。加えて、児童虐待や発達障害の問題、インターネットや携帯電話によるいじめや性的被害等の問題も生じています。

昨今、家庭の教育力や地域のコミュニティ機能が、だんだん低下してきていると言われる中、学校がまるで「最後の砦」と化し、多様化・深刻化した問題に対して、学校がいかにタイムリーに、より適切に対応していくかが求められる傾向が見られるようになりました。そのため、一人で問題を抱え、その解決に向けて必死で取り組まれる中で次第に悩みを深められ、心身のバランスを崩される教員もいらっしゃいます。

不登校問題に限らず、学校だけで対応することが難しいケースが多くみられるようになってきた今、教員やスクールカウンセラー、そしてスクールソーシャルワーカー、関係機関の職員等、異業種の専門職が学校現場でコラボレート（行動連携）していく時代の到来を感じます。このコラボレーションを効果的に図るためにも、私自身のこれまでの実践やスーパーバイザーとして報告を受けた実践の中から、連携を効果的に図るための取組について、今号と次号（第29号）の2回にわたり紹介したいと思います。



1 コミュニケーションを図ろう

児童生徒や保護者とのカウンセリングが行われた場合は、事後に担任をはじめ関係の教員とスクールカウンセラーとの間でコンサルテーションを実施することが大切です。特に、緊急性のある場合は、管理職や不登校担当の先生等とも話をし、共通理解を図ることが必要です。

スクールカウンセラーの中には、事後のコンサルテーションを設ける時間がない場合の工夫として、内容の概略を記した記録票を手渡したり、内容によっては「後ほど連絡がほしい」といった連絡メモを関係の教員の机上に残したりするなど、努めて情報共有を図ろうとされている実践があります。相談の空き時間が生じた場合は、職員室でできるかぎり教員と話すことを心がけるとともに、時には保健室にも足を運び、最近よく来室する児童生徒について養護教諭と情報交換を図るなど、未然防止に向けた取組に努めておられる実践も聞いています。

相談日以外でも、体育祭や文化祭等の学校行事に参加することにより、集団の中で発達上

の問題のある児童生徒に気づき、そこから相談活動が始まることがあります。また、カウンセリングした児童生徒の集団の中での様子もわかり、次のカウンセリングにフィードバックできることもあります。ぜひ、スクールカウンセラーをそうした行事に誘っていただければと思います。

2 ケース会議等への参加を促そう

校内の生徒指導（または不登校対策）委員会、教育相談委員会、学年会等への参加をスクールカウンセラーに依頼し、守秘を徹底した上で、カウンセリングの経緯や現状報告、今後の対応についての見立てについて、ともに協議する体制づくりを進めている実践があります。

こうした体制づくりは、スクールカウンセラーのみならず、関係機関の職員を招聘することにもつながり、今後のコラボレーションのための基盤づくりとして有効に機能するはずで

す。また、非行傾向があり、生徒指導上の問題を抱える児童生徒を継続的にカウンセリングし、ケース会議等で対応を協議することにより、その子の情緒的安定を図りながら、問題行動を軽減させた事例もあります。スクールカウンセラーは、決して不登校に関する相談だけを対象としているわけではないのです。

3 家庭訪問の同行を働きかけよう

閉じこもり傾向の不登校児童生徒に対して、スクールカウンセラーとともに定期的に家庭訪問を行うことにより、スクールカウンセラーによる相談日に登校ができるようになり、それが、放課後登校、別室登校、部分的な授業復帰、部活動や学校・学年行事への参加に繋がっていった事例があります。

より効果的な家庭訪問にするためにも、事前に本人や保護者と訪問についてのご理解をとっておくことや、本人や保護者と話す内容や時間等について教員とスクールカウンセラーとが役割分担を意識して打ち合わせをしておくことが必要です。

こうした家庭訪問の取組は、児童生徒の状況に応じて、関係機関の職員が同行する家庭訪問へと広がっていくことでしょう。

※本稿での「関係機関の職員」とは、例えば、適応教室、こども家庭センター、市町の福祉関連部署等の職員を指しています。

〈次号に続く〉

— ともに考えましょう！ ともに働きかけましょう！ —

- 但馬やまびこの郷の見学や1日（半日）体験、相談、「地域やまびこ教室」への参加について、児童生徒やその保護者にご紹介ください。
- 校内研修やPTA研修等に当所の指導主事を派遣することができます。気軽にご連絡ください。

貴校の不登校対策に、ぜひ「但馬やまびこの郷」を加えてください。一緒に取り組みましょう。

不登校に関する研修会



本年度も、「不登校に関する研修会」を県下5会場で開催します。

7月1日には、淡路文化会館にて第1回を実施しました。講義では、神戸大学大学院准教授 吉田圭吾先生から、実際の事例をふまえた具体的なお話をうかがうことができました。また、協議（演習）では、不登校児童生徒の状況を整理した「状況

把握シート」をもとに、班別でその対応について協議しまとめるという「アクションシート」の作成を行いました。

受講した先生方からは、「講義から、不登校児童生徒の抱える背景をもっとしっかりと把握して対応を図る必要性を感じた」「状況把握シートやアクションシートを実際に使ってみて、組織的な対応の大切さと具体的な対応が見える（共有できる）ことがわかった」といった感想が多く寄せられました。

受講の申込みについては、一応締め切らせていただいておりますが、会場の収容人数により、受講が可能な会場もありますので、ぜひお問い合わせください。

※「不登校に関する研修会」の関係書類は、当所ホームページよりダウンロードできます。

※文中の「状況把握シート」及び「アクションシート」は、当所が平成21年3月に発行し、各学校に配付しました「不登校対応資料」を参照願います。



こんな時の

ワンポイント

家庭訪問をしてもなかなか出会えない児童生徒に会うために、前述の吉田先生が実践されている「3分間法」を紹介します。

それは、事前に「3分間だけ会ってこないかな」とアポをとって出会う方法。

ただ、ここで大切なのは、会えたときに必ず約束の「3分」を守ることです。つまり、この3分間に何を話したかということよりも、約束を守り、信頼関係をつくるのが大切なのです。「あっ、もう3分になっちゃった。じゃあね。また、3分だけ会ってくれるかな」と言って退出するのがコツです。

これを繰り返すことにより、少しずつ子どもに抵抗がなくなり、次第につながりもできてくるそうです。